

## 序 文

本年も、『海事交通研究』第72集をここにお届けいたします。

執筆ならびに査読をいただいた先生方にお礼を申し上げます。

本年も、全編「自由テーマ」で研究論文（査読付き）およびそれ以外の作品（査読対象外）を募集しましたが、ご覧の通り、非常に多岐に亘る作品が寄せられました。

各作品の詳細については、今回の第72集から、文頭に「アブストラクト（要旨）」と「キーワード」が表示され、最大容量が、従来の12ページから14ページに増えてきましたが、是非多くのテーマに目を通していただければと思います。

さて、世界は、2020年初頭から蔓延した新型コロナウイルス感染症、2022年2月に開始されたロシアのウクライナ侵攻、さらには、2023年10月に勃発したパレスチナ・イスラエル間の戦争等により、大いに震撼し、人々の生活や仕事、経済全般に大きな影響をもたらしました。

当然、「海運」をはじめとした「物流」の世界にも少なからず影響がありましたが、「海運」・「物流」の業界は、人々の生活に欠かせない食料・エネルギー・生活物資の流通を「何があっても止めない」という使命感の下に、エッセンシャルワーカーとして活動して参りました。

私は、「海は、世界を隔てるものではなく、世界をつなぐものである」という言葉が好きですが、まさにここで、海を介して世界をつないでいるものは「海運」であり、海が平和を保ち、シーレーンが確保されなければ、「海運」による物流は成り立たず、たちまち私どもの生活にも支障をきたしてしまいます。

しかし、企業間取引（B to B（=Business to Business）取引）の多い「海運」は、他の多くの企業・消費者間取引（B to C（=Business to Customer）取引）を主とする産業と異なり、一般消費者に馴染みが少なく、「海運」の重要性が、中々認識されにくいのは、大変残念なことと言わざるを得ません。せめて、7月の「海の月間」や「海の日」の前後には、「海」「船」そして「海運」の世界がクローズアップされ、一般消費者の共感をいただけるよう私たちも努めて参りたいと思っております。

当財団は、今後も、微力ながら、海運を取り巻く事象を、皆様に伝えていくために、以下の三事業を推進して参る所存ですので、何卒よろしく申し上げます（詳細は、巻末の募集要領をご覧ください）。

1. 本誌『海事交通研究』を通じて、海事に関する幅広い分野をカバーする査読付き論文やそれ以外の作品を、広く募集します。査読付き論文については、昨今若干応募が減っている傾向がありますが、是非皆様のご研究成果をお寄せいただきたく、よろしく申し上げます。
2. 創設者の名前を冠した「山縣勝見賞」は、2008年に「著作賞」「論文賞」「功労賞」の3つでスタートし、2014年からは「特別賞」が追加されましたが、この「特別賞」についてはイメージが沸きにくい面がありましたので、今回募集要領の文章を加筆しま

した。是非、皆様の周囲で、本賞に相等しい方がいらっしゃいましたら、ご推薦くださいますようお願いいたします。

3. 海事交通文化の研究及び普及・発展に貢献する事業への支援・助成についても、引き続きよろしく申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健康とますますのご発展をお祈りしております。

2023年12月

一般財団法人 山縣記念財団  
理事長 郷古 達也